

平成 28 年度 長岡市・三島郡生活科部 活動報告

部長 小嶋 美江子

1 研究主題

子どもの学びを育む生活科の単元構成や支援のあり方はどうあればよいか

2 研究の概要

長岡市立脇野町小学校の講演会・公開授業・協議会への参加を、研究主題に迫る研修の機会とする。

3 研究の実際

4月21日(木) 市教育研究総会(生活科部会)

会場：長岡市立青葉台小学校

内容：組織作り 事業計画づくり 第1回常任委員会

11月11日(金) 新潟県小学校教育研究会指定研究(3年次)

「生活科・総合的な学習の時間」授業研究会

会場：長岡市立脇野町小学校

内容：講演会「次期学習指導要領の方向性とその吟味」

講師 神奈川大学 特別招聘教授 安彦 忠彦 様

全体説明：研究主題「自ら考え 自ら動く子」の説明

授業公開：1年「アルパカとなかよし」

協議会：子どものよさから考察し、要因・背景を探る帰納的協議会

ミニ講演会「アクティブラーニングの視点に立つ授業の充実」

協議会指導者・ミニ講演会講師 元文教大学 教授 嶋野 道弘 様

11月下旬 全会員への「生活科実践例小冊子」の印刷・配布



4 成果と課題

講演会・協議会では以下のようなご指導をいただき、今後の生活科授業の重要な視点として確認できた。

○協議会のあり方

- ・参観者が、児童の行為や変容などの具体的な姿から、児童の思考や気付きの推測や理解(考察)を丁寧に行うこと、その背景や要因を探っていくことが重要である。
- ・多くの参観者が出した「共通」の意見と極少数の参観者が出した「新たな視点」にかかわる意見の2つは、大いに役立つ研究の視点であり、今後、創意・工夫できる可能性が高い視点として生かしていく。

○アクティブラーニングについて

- ・子どもは『『なる』力がある』『他者に『する』力がある』ということが必要な子ども観である。
- ・アクティブラーニングという特定の型を普及させることでなく、「子どもの学びへの積極的な関与と深い理解を促す」指導や学習環境を設定することが重要である。

○生活科の教育原理について

- ・「自分のかかわること・自分にとって意味がある」ことが重要なのである。その原理に答えるためには、他者のためだけという活動ではなく「他者との関係で生まれる自己意識」を大切にしていける。「〇〇のためにやっていたことが自分のためになっている」という気付きを大切にしていける必要がある。



- ◇ 今年度は、研究会への参加研修に加え、日々の授業にすぐ活用できる「生活科実践例小冊子」を全会員に配布した。今年度の研修を生かしながら、今後も会員が実践や研修を積み重ねながら、新学習指導要領の方向を踏まえた授業改善に努めていく。